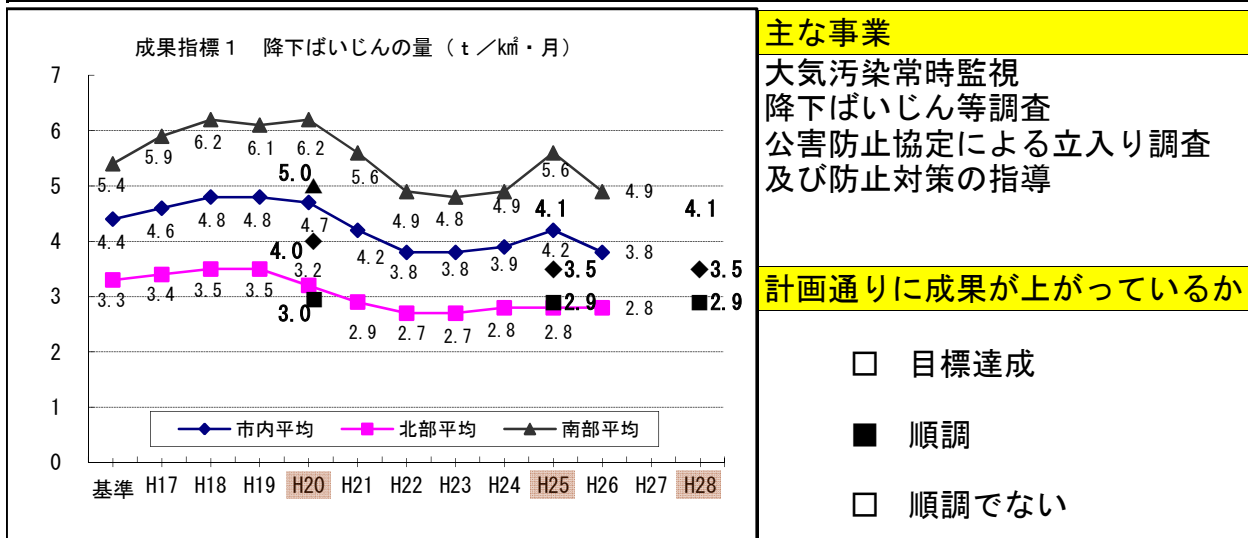


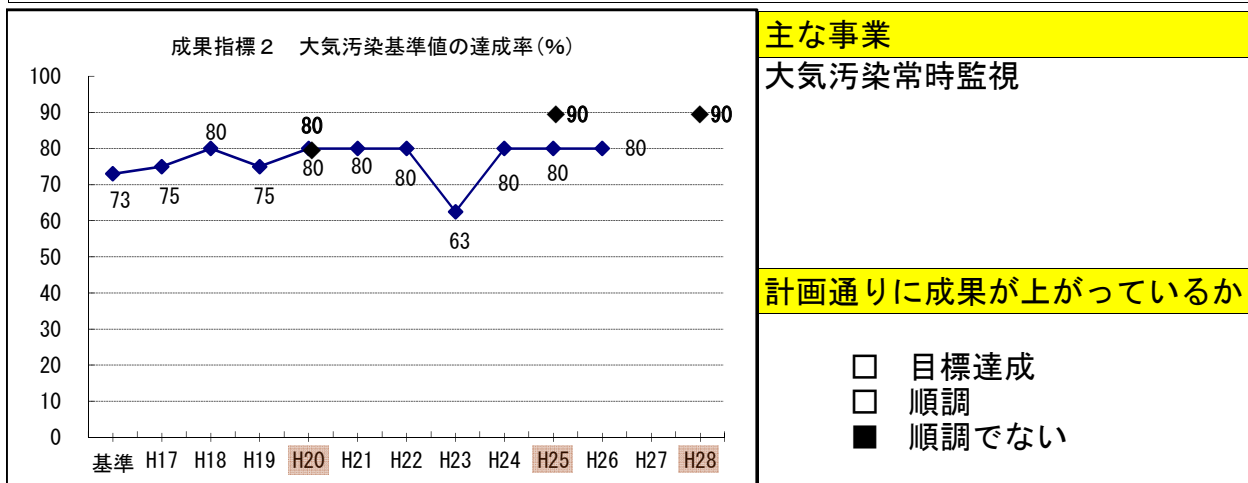
(2) 成果指標評価表

柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち



成果指標の分析

平成26年度の降下ばいじん量は市内平均3.8t(北部平均2.8t、南部平均4.9t)で前年度と比べ0.4tの減少となり、28年度目標値には達していないものの、順調に推移していると思われる。臨海部企業はばいじん発生対策を常に実施しているが、対象箇所が多く、また発生防止技術の急激な向上が見込めない状況ではあるが、細かな発じん防止対策の効果が表れていると考える。なお、測定値については気象条件により、増減する可能性もある。



成果指標の分析

事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、平成26年度は二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が環境基準を達成したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であった。光化学オキシダントについては、発生メカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも平成25年度の達成率は0.3%であり、効果的な対策がないのが現状である。

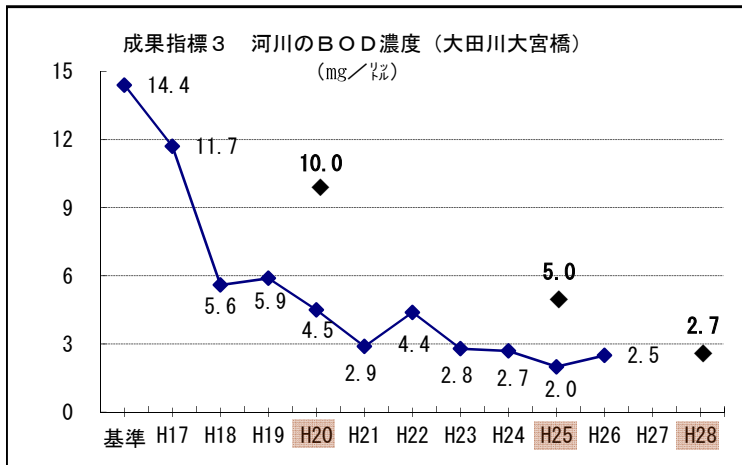
成果が向上する余地(可能性)は?

大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対して発じん対策等、環境対策を指導し実現することで改善する余地がある。
大気汚染基準値では、現在光化学オキシダントの効果的な対策はないが、18年度から始まった揮発性有機化合物(VOC)を減らすための新たな仕組み等、関連各機関における総合的な対策により向上する余地はある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



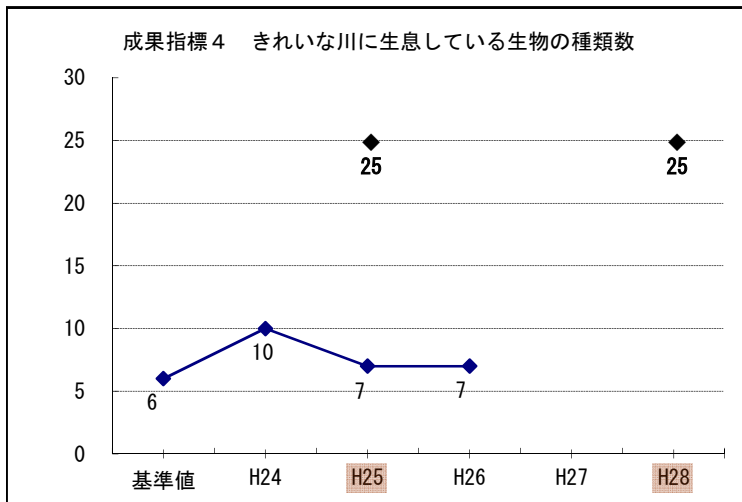
主な事業
 河川の水質調査(8箇所、年4回)
 河川・ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

河川の水質調査は、季節や天候による影響はあるものの、20年度以降は全般的に数値が改善され、28年度の目標値についても達成している。これは、下水道の整備・普及が進み、生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考えられる。



主な事業
 大田川等生物調査委託
 渡内川・中川クリーン作戦
 河川ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

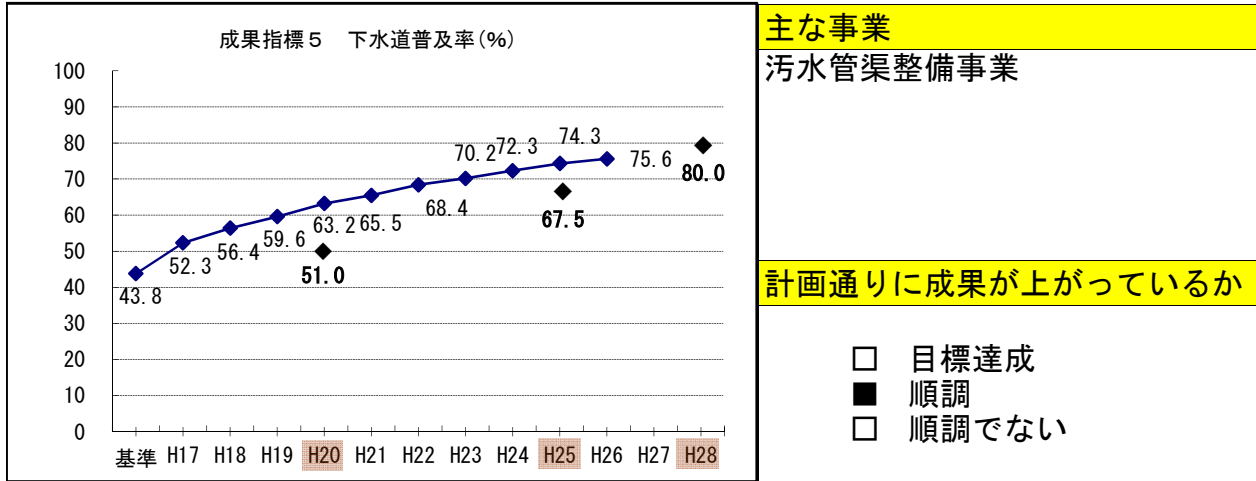
確認された指標生物は、前年度と同数の7種類のままで、目標値と比べると大きな差があり、河川環境に係る大きな変動はないと思われる。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

河川や海域の汚れは生活排水の流入による要因が大きいため、下水道の整備拡充を推進することによりさらに向上する余地がある。
 下水道未整備地区においては、生活排水対策の実践など、各家庭で意識して環境にやさしいライフスタイルの推進の啓発することにより向上する余地もある。
 また、河川整備や下水道整備などのハード面での施策だけでなく、河川美化活動等や生物調査により河川の環境への関心を高めるなど、ソフト面での施策が成果向上に対して重要な要素である。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



主な事業

汚水管渠整備事業

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

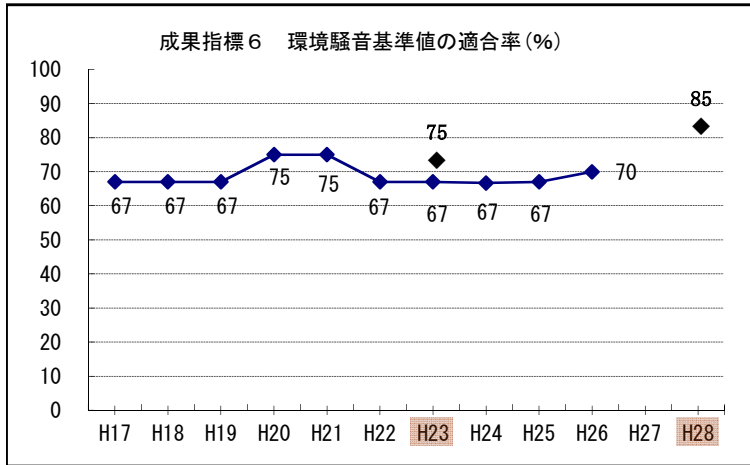
平成26年度の下水道普及率は前年度に比較し、1.3ポイント増加の75.6%となった。これは、名和町、大田町で整備済面積が増加したことによるもので、28年度目標値である80%に向け順調に推移している。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

汚水管渠整備には多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を着実に実施することにより、成果向上が見込まれる。

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち

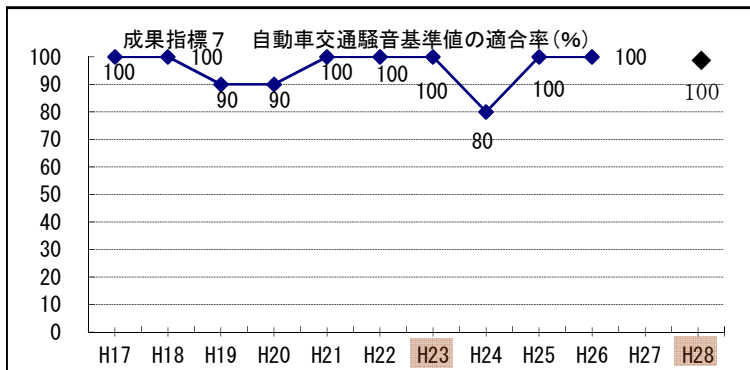


主な事業
環境騒音測定

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施している。26年度は、昼間の測定では緑陽敬老の家（名和町）で環境基準を達成できなかったが、それ以外の地点では環境基準を達成した。夜間の測定では、緑陽敬老の家（名和町）、市役所（中央町）の2地点が達成できなかったが、28年度目標値に向け順調に推移していると考えられる。



主な事業
自動車騒音測定
自動車騒音常時監視業務

計画通りに成果が上がっているか

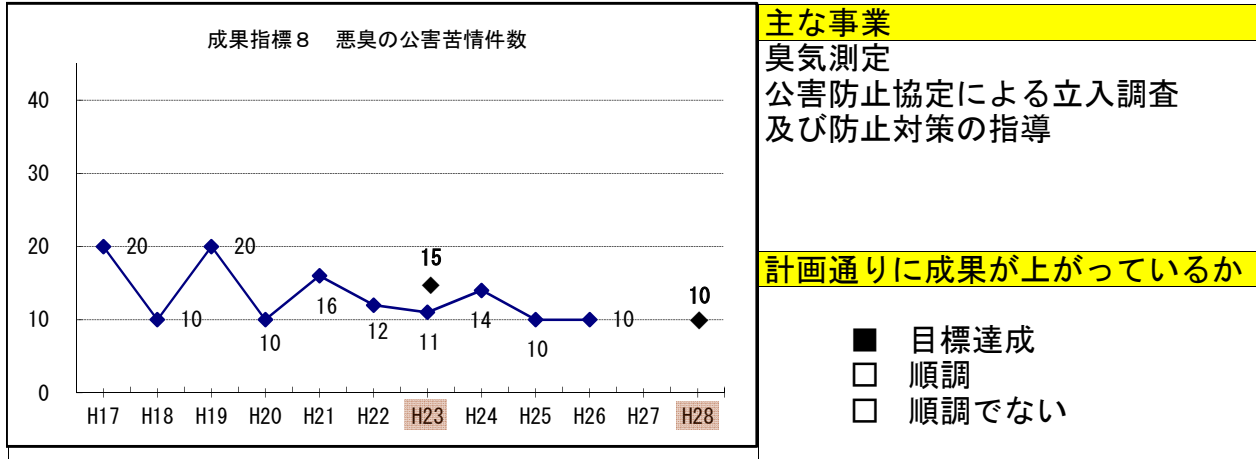
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
自動車騒音は、名和町2地点（うち1地点が工事により欠測）、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で昼間、夜間に調査を実施している。26年度は、昼間、夜間ともすべての地点で要請限度を達成した。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。直接的な対応は難しいが、環境にやさしいライフスタイルに見直すような啓発活動を推進する。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち



主な事業

臭気測定
公害防止協定による立入調査
及び防止対策の指導

計画通りに成果が上がっているか

■ 目標達成
□ 順調
□ 順調でない

成果指標の分析

26年度の悪臭の苦情件数は前年度と同数の10件で、28年度目標の10件を達成した。

苦情の内訳として、サービス業が1件、製造業が1件、農業が2件、家庭生活が2件、不明が4件であった。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明であるが、26年度は28年度の目標値を達成しており、苦情件数は横ばいにある。

今後も引き続き、固定発生源の対策の啓発、指導、巡回パトロールなどを行い苦情件数を減らしていく。